



# すまいるだより

## 子どもの気持ちを理解するために

vol 10

【子育てのご相談】

子育て世代包括支援センター

「えがお」(健康福祉課内)

電話 0241(62)6170

メール [egaon@naniyai.zu.or.jp](mailto:egaon@naniyai.zu.or.jp)

**先** 月号で、「困らせている子どもは困っている子ども」をテーマにお伝えしたところ、記事を読んでくださった方から「いろいろ考えたら、子どもの気持ちって難しい・・・と思うってしまった」というお話をいただきました。

**そ** こで今回は、大人には分かりにくい「子どもの気持ち」を理解する手がかりをお伝えします。

**大** 人は、子どもの気持ちを理解しようとするとき、「子どもの姿」から気持ちを考えます。子どもの姿とは、姿勢やかからだの使い方、目線、ことば、人とのやり取り、表情や遊び方、物の扱い方など、目に見えるもの全てのことを指しています。

**大** 人は、目に見える子どもの姿から、「なぜこうなのか」「なぜできないのかな」と考え、目には見えない子ども

の気もちや子どもなりの理由を探ります。

**し** かし、子どもの中には大人が想像し、理解できる「子どもの枠」からはみ出すことをする場合があります。そうになると、「ダメだと分かっている」として繰り返すの「難しいこと」が理解できるなら、簡単なことも分かっている「当然なのに」という疑問が生まれてきます。

**大** 人から見れば、努力が足りない、ふざけている、わざとやっていると感じることがあるかもしれません。このようなよく分からない状況に対処するには、大人が持っている「子どもの枠」を、少し広げる2つの視点が大切です。

**ひ** とつめは「子どもが生まれ持った発達の特性は変えられない」という視点です。のんびり屋、やんちゃ、ひょうきん、一人が好き、動くことが

好きという生まれつきの特性は、変えようとしても大きく変わることはない根本の部分です。ですから、大人は「子どもの特性」を変えようと奮闘するのではなく、どうやったら楽しく安心して生活できるかという視点で関わるのが大切です。

**ふ** たつめは、「経験で身に付けてきたことは変えられない」という視点です。たとえば、友だちの気を引くために「叩く」としたら、それはその子が意地悪な気持ちで叩いたのではなく、今までの経験で身に付けてただけのことです。そんなときは周りが受け入れる別の方法(「声をかける」「やさしく触れる」など)を具体的に教えていくことで、「叩く」という行動を変えることができます。

**こ** のような2つの視点で子どもの行動を見ていくと、子どもの理解しにくい行動が整理できるかもしれません。

**こ** のような2つの視点で子どもが苦手、どんな人にもそれぞれ

**人** は、自分が経験したことや学んだことから価値をはかる物差しを持ちます。男性と女性、日本人と外国人、大人と子どものように、立場の違う人間同士が分かり合うことはとても難しいことです。そして忘れてはいけないことは、それがたとえ自分の子どもや孫であっても、「別の人格なので分かり合えないときがある」ということです。

**と** きには、大人が短所だと決めつける子どものも特性が、誰かを救う長所になることもあります。いつもゆっくり行動する子が、誰も気付かないところで転んだ友だちに気付いて「大丈夫？」と声かけるやさしい面があったり、大きな声でぎやかな子が、みんなが恥ずかしがる場面でも率先して行動することで、周りが助かったりするものです。手先が不器用、好き嫌いが多く、静かにすることが

が苦手、どんな人にもそれぞれ

の人にしか分からない、その人だけの見え方や感じ方があるということです。

**大** 人の私たちが、忘れてしまいがちなことを教えてくれる、子どもの行動や考え方の日々の忙しい日常では意識しにくいことですが、たまに考えるチャンスがあればとてもありがたいことです。

**そ** れでも「子どもの気持ちがよく分からない」と悩むときは、もちろん「えがお」まで気軽にご連絡ください。一緒に子どもの気持ちを考えてみませんか。



【参考図書】  
気になる子の本当の発達支援  
市川奈緒子・著

【おすすめ図書】  
みえるとかみえないとか  
ヨシタケシンスケ・書く  
伊藤亜紗・そうだん